

日高晤郎さんの足跡本に

STVラジオ(札幌市)の人氣パーソナリティーで、2018年4月に悪性腫瘍で74歳で亡くなった日高晤郎さんの生涯を紹介する本が出版された。友人で歌手の堀内孝雄さん(70)ら計30人余のインタビューも掲載。苦勞と努力を重ねて話芸をきわめ、厳しくも優しい人柄で愛された日高さんの足跡をたどる力作だ。

愛された話芸、人柄

ラジオパーソナリティー

日高晤郎

フォーエバー

川島博行



「日高晤郎フォーエバー」の表紙

堀内孝雄さんらインタビューも



著者の川島さん

本のタイトルは「日高晤郎フォーエバー」(エイチエス、税別1600円)で、著者は札幌市豊平区の元地元紙記者の川島博行さん(61)。日高さんへの聞き書き記事を加筆・修正し、取材も重ねて一冊にまとめた。

日高さんは1983年に公開放送番組「ウィークエンドバラエティ日高晤郎ショー」をスタート。毎週土曜日の最長9時間に及ぶ人気番組に育てた。体調悪化で18年3月24日が最後の出演となり、その10日後に急死した。

本では、大阪市で生まれ、

9歳で親と別れ、養父母に育てられた生い立ちから紹介。17歳で本名の「細谷新吾」で俳優デビューし、その後上京して、レコードも出したものの、弾き語りなどで生計を立てた。

転機は1977年に訪れた。札幌市のキャバレーのオーナーの紹介で、STVラジオのスタッフと知り合い、話題が豊富で人を飽きさせない実力を見込まれて出演を依頼された。ラジオで話芸を磨く道が開けた。86年頃に日高さんと出会い、親交を深めた堀内さんは本のインタビューで「毒舌でもあったけど、勉強家で大人としての見解も持ち、それがすごかった。こんな人、日本中探してもいない」と振り返った。

川島さんは「話芸に生き、最後は悲しくも鮮やかな幕引きとなってしまったが、ファンの思い出の中に日高さんは生き続けるだろう」と話している。